



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

クウェイト：イランのブーシェフル原発に対するクウェイトの立場  
(24日付クウェイト国営通信ほか)

24日付クウェイト国営通信（KUNA）および25日付現地各紙は、イランのブーシェフル（ブシェール）原発の稼動に対するムハンマド副首相兼外相とジャーラッラー外務次官の発言に関し、報じている。

1. ムハンマド副首相兼外相の発言（24日付KUNA および25日付シャーサ紙）
  - (1) ブーシェフル原発にロシアが供給した燃料が搬入され、同原発が稼動間近であることにクウェイトは懸念を抱いている。
  - (2) クウェイトはロシアとイランより、ブーシェフル原発では高水準の技術が使用されていることを保証するとのメッセージを受け取ったが、我々はこの原発が第何世代に属しているのか分からず、クウェイトに極めて近い場所にそのような原発があることを引き続き懸念している。
  - (3) なお、クウェイトは第三世代もしくは第四世代の技術を利用した原発の建設を目指している。
  
2. ジャーラッラー外務次官の発言（25日付現地各紙）

ブーシェフル原発に対するクウェイトの懸念は、この原発が地理的にクウェイトに近いこともあり、自然災害による燃料漏れの可能性に対するものである。